

教育旅行についてのアンケート結果

調査趣旨：今後の教育旅行に関する取組の支援方策の検討に資するため、受入協議会等の取組状況や受入における課題、課題解決に向けた意見などを把握する。

調査期間：平成 26 年 9 月 2 日～平成 26 年 9 月 24 日

調査方法：（総合）振興局を經由して各地域の受入協議会等にアンケート用紙を配付し回答を得た。

回 答 数：受入協議会等 92 団体中、55 団体と 1 個人から回答があった。

振興局別の受入協議会等の一覧と回答数

	受入協議会 等	回答数	
		団体	個人
空知	14	8	
石狩	6	5	
後志	3	3	
胆振	3	2	
日高	1	1	
渡島	4	4	1
檜山	4	3	
上川	20	10	
留萌	1	1	
宗谷	3	3	
オホーツク	3	3	
十勝	25	8	
釧路	1	1	
根室	4	3	
合計	92	55	1

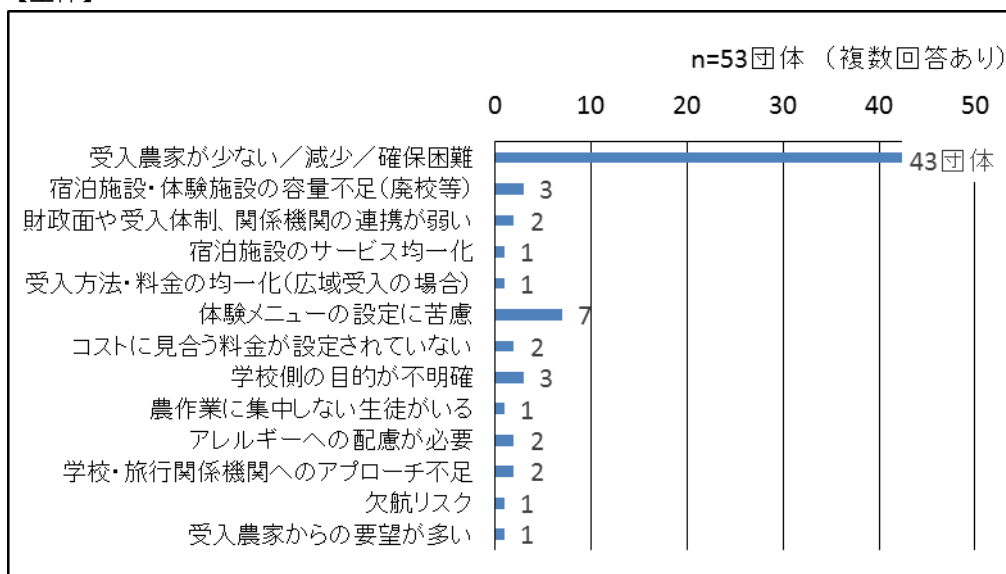
1. 各受入協議会が行う教育旅行のタイプ

- | | |
|---------------------|------------|
| ①農家への宿泊を伴う生活体験＋農業体験 | 35 団体 |
| ②日帰りの農業体験のみ | 12 団体、1 個人 |
| ③その他 | 8 団体 |

〔廃校舎やペンション、町内民宿、加工体験施設を備えた宿泊施設に宿泊するもの、防災教育・自然体験を中心に行うもの、コーディネート組織として活動している組織 等〕

2. 教育旅行の受入に関する課題

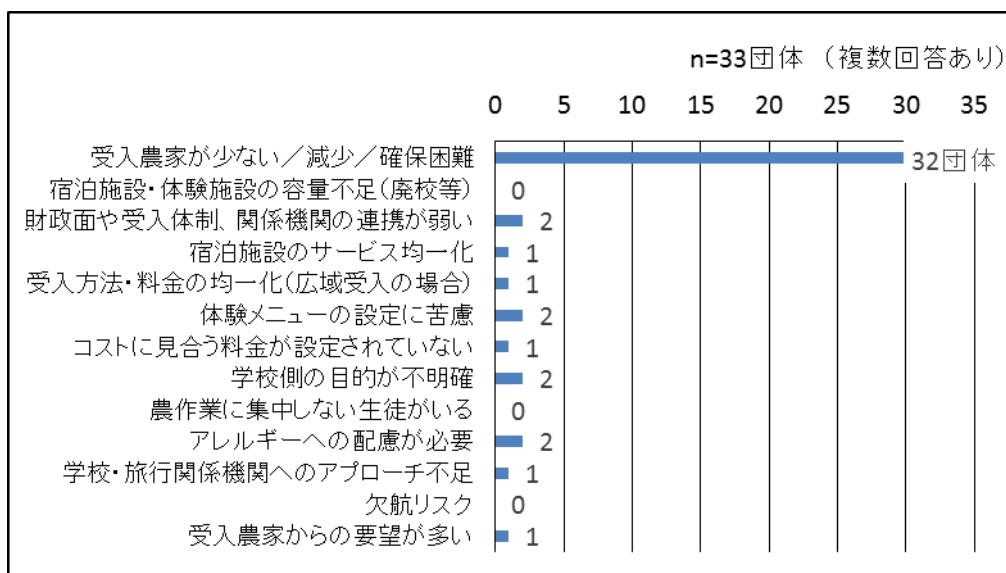
【全体】



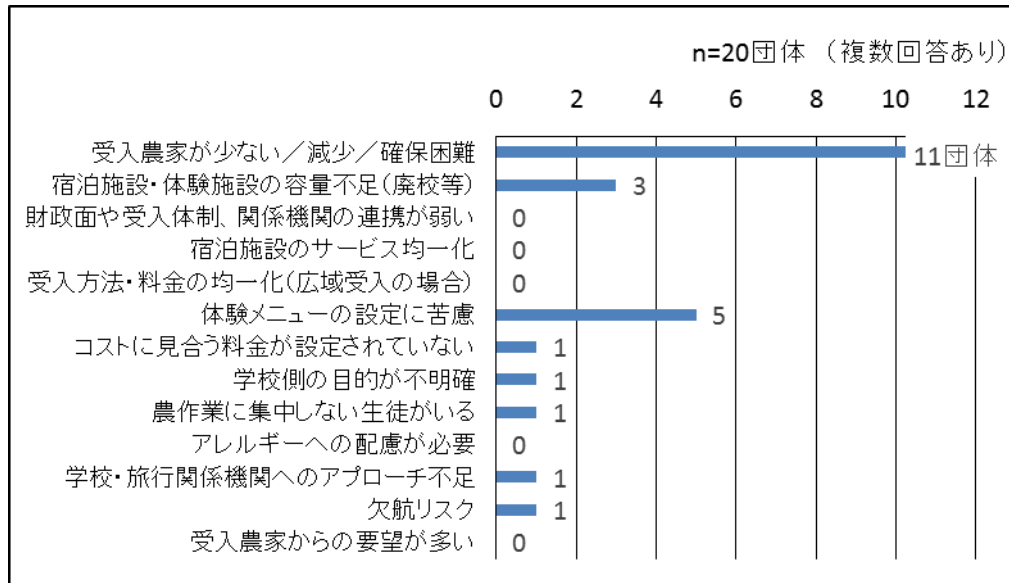
主な意見

- ・ 宿泊可能な農家が増えない。
- ・ 受入の時期が合わない。
- ・ 容易にできる体験メニューが（野菜、花きなど）が少ない。
- ・ 水稲主体のため夏季に体験できるメニューが少ない。春、秋にはそれぞれ田植え、稲刈りがあるが、機械化が進み短期間で終了してしまう。

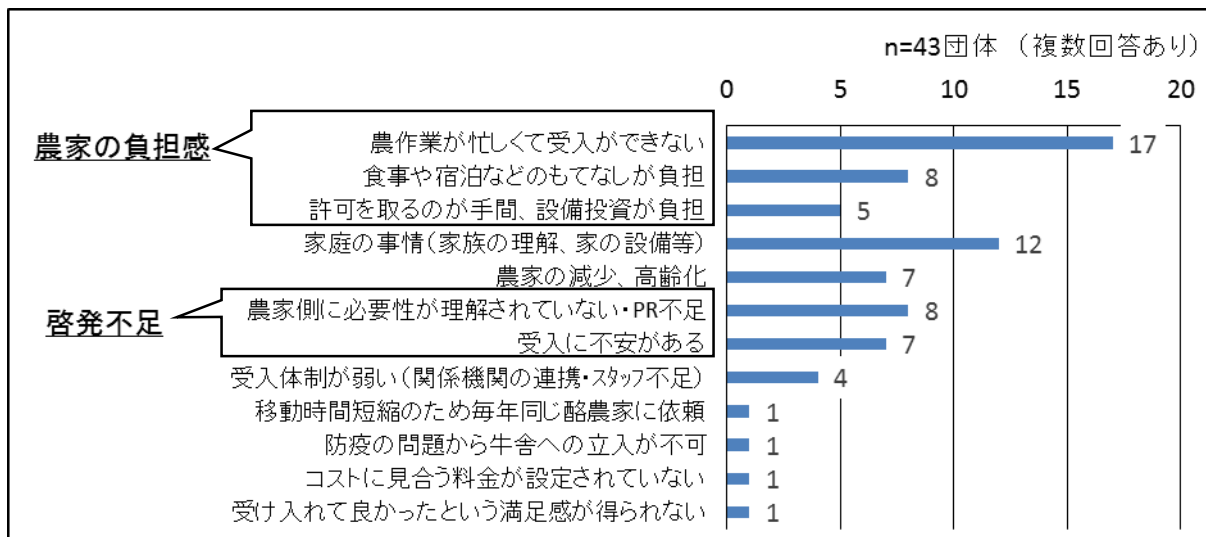
【農家への宿泊を伴う生活体験の受入団体の場合】



【農家への宿泊を伴わない農業体験の受入団体の場合】



3. 受入農家が少ない／減少／確保困難となっている要因



主な意見

- ・農繁期と重なるため、農作業が忙しく受入が出来ない。
- ・宿泊を伴うと負担が大きいため。(特に奥さん)
- ・家族の同意が得られない。
- ・高齢となり対応できない。
- ・子どもを預かる際に何かあったら責任を負えないなど不安が多い。

4. 課題への対応策

「農家の負担感」を軽減する対応策

- ・受入農家までの送迎や作業着・作業道具などの準備を協議会が行うことによって、農家の負担を軽減する。
- ・休耕地などに体験用の畑を作り、引退した元農家を指導役にしてみよう。
- ・宿泊先と農作業先を分けて、受入農家の負担が少ない受入を行う。
- ・どこかに集まって夕食をとる。つくりやすいメニューに統一する。
- ・女性の意見を聞く。
- ・説明会を開催して農家民泊の意義等を理解してもらえよう努める。
- ・謝金を値上げして、活動の価値を農家の方々に実感してもらおう。
- ・民泊許可、消防設備等の初期費用の軽減。体験用具の用意（長靴、カップ）。

「家庭の事情、農家の減少、高齢化」への対応策

- ・地域の比較的若い方に協力を依頼し、世代交代につなげる。
- ・受入している現状を広報で周知・PR。
- ・地道に事業の趣旨を説明し、賛同者を増やす。実際に受入をしているかたが説明するのが望ましい。
- ・他地域との連携を図る。

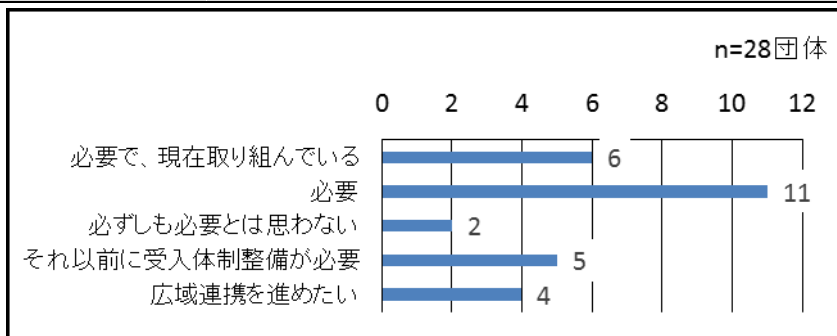
「啓発不足」への対応策

- ・女性部総会等でパンフレット配付。
- ・行政や農協等に関わってもらい、地域全体での取組みにしていく。
- ・新規就農者や就農研修中の方への声かけ。
- ・会員相互で新規加入者の掘り起こし。農家自身が受入の楽しさや意義などを周囲の農家に伝える。

「体験メニューの設定に苦慮」への対応策

- ・他地域のプログラム内容を学ぶ。
- ・農業体験以外のメニューを充実させる。
- ・学校側との信頼関係を構築し、地域側の事情を伝える。

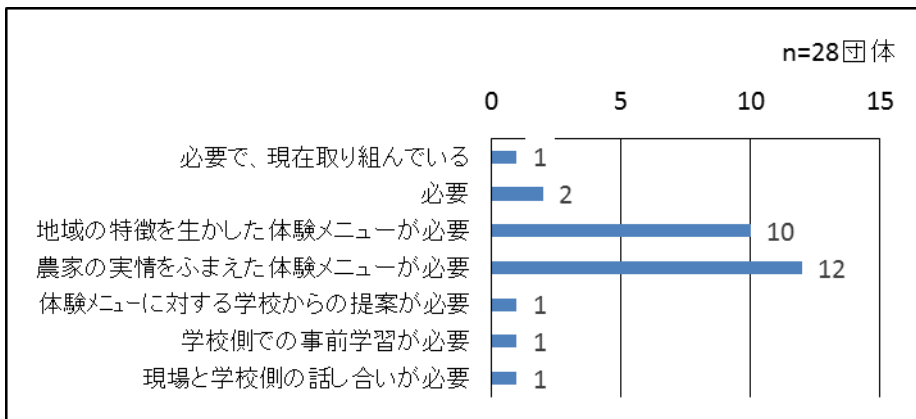
5. 地域のサポート体制の必要性



「必要」な理由

- ・体験を進める上で、地域のサポートが絶対必要になる。当町は関係機関を集めワークショップを実施して、体験内容について協議している。
- ・地域全体のサポートは重要で、地域ぐるみの取組みに育ってほしい。具体的には役割分担制と考えている。農家が農業や食の思いなどすべてを教育者的な立場で伝えるのは難しい。事務局、地域リーダー、旅行会社、地域全体など、役割分担をもった受け入れが望ましい。
- ・体験メニューを増やすために必要。（地域の人たちと一緒にカリキュラム、農作業以外の多様なメニューづくり）。
- ・地域の特色を掘り起こすことによって活性化につなげるために必要。

6. 学校側のニーズに応じた体験メニューの充実の必要性



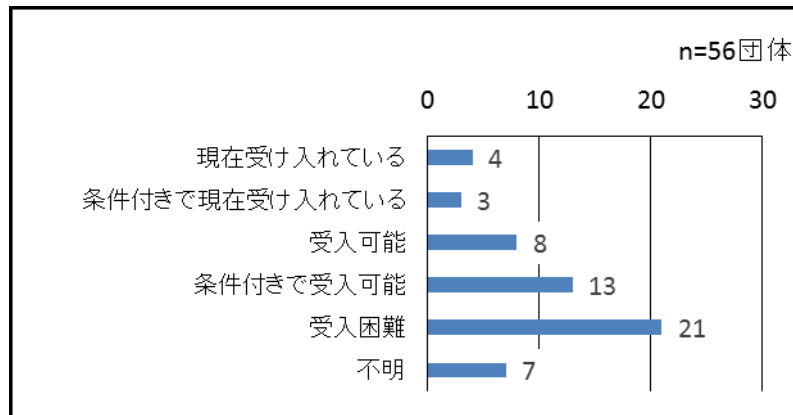
「学校側のニーズに応じた体験メニューが必要」な理由

- 一方的なメニュー提供ではなく旅行会社を通じて学校側ともメニューづくりについて相互に話し合うことも必要。
- 農作業だけではなく、溪流つり・森林ウォーク・植林体験など地域と連携し、対応していきたい。

「農家の実情を踏まえた体験メニューが必要」な理由

- 逆に農家の事情を学校側に理解してもらい、農家の有り様も含めて学習教材にするという意識も必要。
- 学校側のニーズを受け入れできるかどうか農家が判断する機会が多いが、超繁忙期を農家が示し、その要望に学校が応える形が作られれば、受け入れる農家の負担感が少なくなる。
- 農家からのニーズについても柔軟に対応して、学校・農家相互の理解が深まるようにすることが大切。
- 学校側の全てのニーズに対応できる体制にない。必要性は感じるが、全て対応すべきものか逆に疑問を感じる。
- 学校側から特別扱いしないでほしいと言われている。
- 過度な受入拡大・体験メニューの充実は、受入側にとって負担が大きい。
- 受入先の負担が増すようなことになってはいけない。ありのままの農村生活を体験するだけで都会の生徒には大きな感動がある。あまり手を加えすぎると逆効果になる。
- 学校側の都合も理解できるが、受け入れ側の事情や都合を学校側にも理解してもらう必要がある。
- 体験メニューは受け入れ先に任せているため、ニーズに応えるには統一した体験メニューが必要であり、今後検討が必要。

7. 小学生の受入の可否



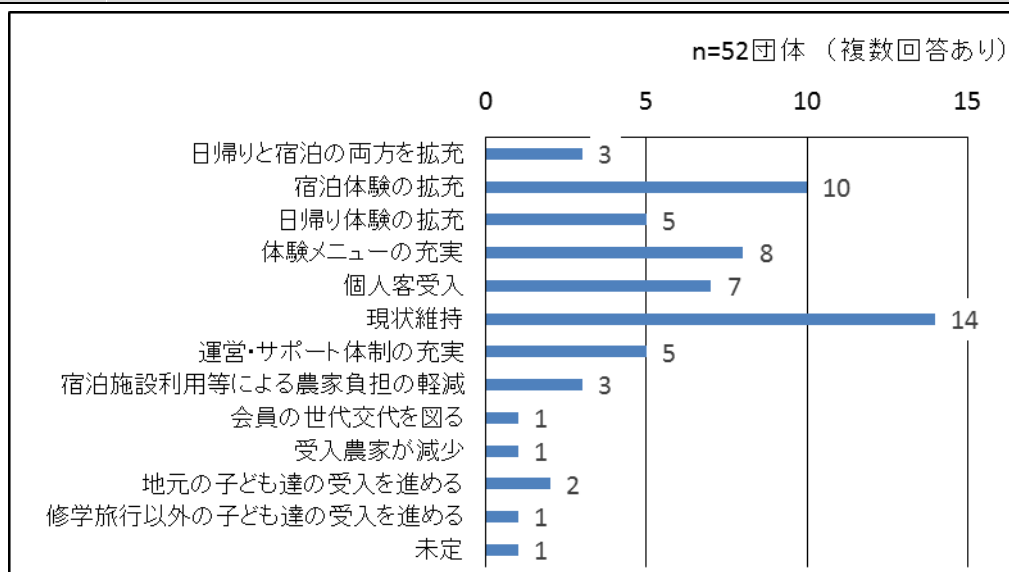
受入に関する条件

- ・受入人数や受入回数に限度がある。
- ・分宿型になるため学校側の考え方の整理が必要。
- ・ファームインの利用についての理解が必要。
- ・酪農は排泄と生産が一体となっており、子ども達に悪いイメージを与えかねない。
- ・虫嫌いな子ども達がいるので、配慮が必要。
- ・教員や保護者がつくことを検討する必要がある。

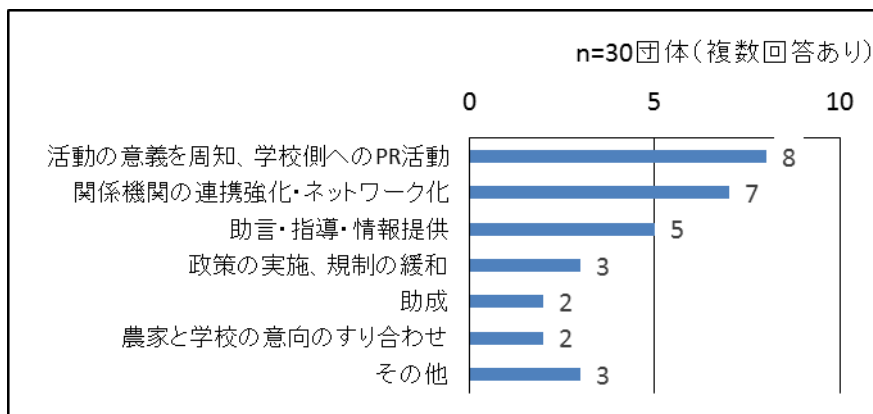
受入困難な理由

- ・受入農家が減少しているため。
- ・繁忙期の受入が困難。
- ・受入先がペンションであるため、小学生だけの宿泊は難しい。
- ・宿泊先が足りない。
- ・農家に理念を理解してもらうのが難しい。
- ・民泊での実施は難しい（他の宿泊施設の利用を検討すべき）。

8. 将来の方向性



9. 行政への要望



<各要望の詳細>

活動の意義を周知、学校側へのPR活動

- ・農業体験の意義を様々な方に幅広く周知することが必要。
- ・JA・農家に対する意識啓発が必要。
- ・食農教育も生産活動のひとつとして、農家さんへ積極的に働きかけてもらいたい。
- ・修学旅行は単なる“観光”ではなく、“教育”の一環であるという意識作り。
- ・集客するためのPR。
- ・こうした体験活動を積極的に行う学校はまだまだ少ないため、学校側への働きかけが必要。
- ・クリーンで安全な北海道の農産物のアピール。

関係機関の連携強化・ネットワーク化

- ・グリーンツーリズムをやっている団体との交流会を開催したり、情報交換できる場を提供してほしい。
- ・官民の役割の元、しっかりとした受入環境を整備することが必要。
- ・全道・各支庁での各組織間の連携強化を望みたい。
- ・広域圏での受入サポート機関の創設について働きかけをお願いしたい。
- ・北海道として一次産業体験民泊の受入窓口の一本化。
- ・町や農協に積極的にかかわってほしい。北海道、市町村、農協等、農業関係機関が積極的であってほしい。
- ・農家と密接な関係ができていてる普及センター等の協力が得られれば良いと思う。農業関係団体との協力も必要であり、北海道にはこれらの機関と連携した取組となるよう調整役として尽力してほしい。

助言・指導・情報提供

- ・先進地の情報提供。
- ・全国の修学旅行の状況、流行、ニーズ等を把握したいので説明会を開催してほしい。
- ・ワークショップや講演を行ってくれるアドバイザー派遣への助言。
- ・民泊に関する許認可についての指導。

政策の実施、規制の緩和

- ・民宿許可や消防設備等の申請手続きの簡素化。
- ・北海道教育委員会等で修学旅行の分泊を禁止しているが、分泊を認めてほしい。全国的に分泊を禁じているので、改善を求めてほしい。
- ・子プロを媒体として幅広い地方活性化の方策が実現されるよう、重要施策として子プロを一層推進すること。

助成

- アドバイザー受入への支援。
- 民泊体験の助成金や補助金（小学生は低価格のため受入が難しい）。
- 民泊許可や消防設備等の申請手続きの費用負担の軽減。
- 市町村への財政支援。受入活動を行っている団体等への財政支援。

農家と学校の意向のすり合わせ

- 学校側と受入農家の日程の調整を図って頂きたい。
- 受入側（農家）と、学校側の考え等が一致しないことには、進められない。農家の立場を十分に理解することが大事である。

その他

- 受入専用圃場の整備。
- 行政の取組が中途半端で積極性が感じられない。
- 教育旅行の受け入れはリスクも伴うので安易に考えることは危険である。受け入れを目指す地域・団体は教育旅行受け入れのリスクと教育旅行を受け入れるメリットを十分理解したうえで進めるべきで、行政機関もただ炊きつけるだけでなく、上記をしっかりとフォローした上で進めるべき。

教育旅行についてのアンケート

— お 願 い —

教育旅行における取組に関するアンケート調査について（依頼）

日頃より、教育旅行の受け入れに関して、精力的に取り組まれていることに対し心より敬意を表します。

さて、北海道の農村を訪れる教育旅行は、子どもたちの人格形成を育む上で大きな効果があるとともに、北海道の農業・農村への応援団づくりにも寄与する重要な取組です。

しかし、農家の高齢化・規模拡大などの進行により、受け入れ農家が減少しているなど様々な課題が生じています。

このような中、今後の教育旅行の取り組みを円滑かつ効果的に推進するための支援方策の検討に供すべく、お手数をおかけして誠に申し訳ありませんが、貴団体の現状や将来方向について率直にお聞かせ下さい。

属性

団体名： _____

担当者： _____ 連絡先： _____

質問

以下の質問にお答えください。なお、記述式の質問に対しては、出来るだけ詳細に記載してください。

Q1 教育旅行の体験には主に2つのタイプがあると思われませんが、貴団体はどちらのタイプですか？該当する番号に○を付けてください。

①農家への宿泊を伴う生活体験と農業体験を一緒に行うもの

②日帰りの農業体験を行うもの

③その他（ _____ ）

～次のページに続きます～

Q2 教育旅行の受け入れに関する課題はありますか？ある場合は、具体的に記載してください。

(例：宿泊可能な農家が増えない。農業体験に関して学校側からの過度な要望が多いなど)

Q3 前問の課題が生じている要因は何ですか？可能な範囲でお答えください。

Q4 課題解決に向けて、どのような対応が必要であると考えますか？現在考えている方策やアイデアなどを教えてください。

また、上記に関連して、生活体験（農家への宿泊体験）を行っている団体にあつては、生活体験の受入農家の増加を図るための方策などがあれば、あわせて教えてください。

Q5 今後の教育旅行の受入に関する取組の拡充に向けて、地域全体としてサポートする体制づくりを進めることや学校側のニーズを捉えた体験メニューの充実などを求める声もありますが、これらの必要性についてどう思われますか？

～次のページに続きます～

- Q 6 国は小学校を中心に宿泊体験活動を行う子ども農山漁村交流プロジェクトを推進しており、今年度中の法制化の動きもあるところです。この子ども農山漁村交流プロジェクトは、小学校5年生を中心とした教育旅行ですが、貴団体として、小学校の受入が可能と考えますか？

- Q 7 貴団体の今後の取組として、どのような将来方向を描いていますか？率直にお聞かせください。

(例：日帰りの農業体験中心から農家への宿泊を増やして生活体験に関する受入を進めるなど)

- Q 8 最後に、北海道など行政機関への要望がありましたら教えてください。

— ご協力大変有難うございました —